

# ユーモアと発話について

李 奇楠 (北京大学)

## 要 旨

本稿では、ユーモアの発話が二種類に大きく分けられることを述べる。第一は、発話の形態的特徴を持つもので、第二は、とくに形態的特徴がなく、コンテキストによってもたらしたユーモアの発話である。第一種類のユーモアの発話は音声、語彙、構文およびこれらの結合体テキストにわたって、標識のある有標的発話だと言える。それに対し、第二種類のほうは、そのような標識がない無標のユーモアの発話である。第一種類のユーモアの発話も第二種類のユーモアの発話も、われわれの日常生活に根強く生きている。そのようなユーモアの発話は言語使用者に愛用され、享受され、われわれの人間生活を楽しいもの、意義あるもの、進歩的なものにしてきている。それらはこのような重要な発話機能を持ち、配慮表現のカテゴリーにも入る“素敵な”発話だと、今回の考察を通して認識を新たにするようになった。

キーワード：ユーモア、音声、語彙、構文、コンテキスト

## 1.はじめに

ユーモアと発話の関係を究明することが本稿の目的である。ユーモアの発話とはどのようなものであろうか。音声、語彙、構文、テキストおよびコンテキストにわたって、それぞれ考察、分析する。音声は現実的に、どの段階とも密接的連係があるが、音素単位を中心に考えるので、その他の発話構成単位と独立して最初に取り組む。

一般論的として述べると、ユーモアは人間生活の調味料である。塩や砂糖のように、コミュニケーションのとき少し入れたら味がある。もちろん、ユーモアには身振り手振りや表情のようなボディランゲージのことも含まれる。本稿では今回、発話の部分に注目し、考察視野に入れる。具体的にいうと、おもに、音声、語彙、構文、ディスコースとの関係でユーモアの形態的語用的特質を探り、明らかにする。

## 2.ユーモアとは

まず、従来のユーモアの概念について確認してみる。

ユーモアという概念は日本語にも中国語にもあり、両方とも英語 humor の音訳語である。意味としては、日本語では、たとえば、「思わず微笑させるような、上品で機知に富んだしゃれ」と解釈され、中国語では、“有趣或可笑而意味深长(おもしろく、微笑ましく、しかも意味深長である)”と説明される。両方とも似たような内容であるが、日本語の概念は、モノ的に偏り、中国語の概念はコト(性質)的に傾斜していると言えるであろう。英語の humor に関する説明は、次のようになる。“(the ability to understand and enjoy)what is funny and makes people laugh.” ユーモアを一つの能力、すなわちおもしろさを理解し、享受できる能力、また人に笑ってもらえる能力として強調している。英語もどちらかと言うと、中国語と同じくユーモアのコト(性質)的な面に重点を置いているであろう。

ユーモアは一種の能力と認められても、あるいは人に微笑させるような意味深長的なものとしても、そのような性質は最終的には何らかの形で現わさなければならないだろう。その場合、言語の形(音か文字かの形態)を通してその力を発揮することが多い。ユーモアの本質を突き止める

ため、その可聴あるいは可視の形態特徴の考察が必要である。以下、ユーモアと発話との関係について具体的用例を検討しながら規律的なルールを抽出し整理する。

### 3. 発話のユーモアについて

人間には“求同心(同を求める心理)”がある。それと同時に“求異心(異を求める心理)”も併せ持つと思う。“求同心”はバランスを取れるための協調目当てのような原理が働いていると言うなら、“求異心”は型破りの創造的価値観を求める原理が働いていると言えるであろう。前者は対照的な場合、つまり選択肢が複数ある場合、特に機能を果たすことになるが、後者は千編一律ではなく、ユニークで新鮮さがあるのを好む人間の心理の表われである。ユーモアの発話はまさに、その両方の性質をつねにともに備えているのではないかと思う。本来は矛盾のような性質が並存するからこそユーモアの効果をもたらしたのである。以下、音声、語彙、構文、テキストの別にユーモアの発話に関する考察を順に進める。話しことばの場合、音声的特徴はつねに備わっているが、とくに音声部分に集中し取り上げるのがまず、下記の3.1節である。

#### 3.1. 音声に見られるユーモア

本来、書きことばの文字言語以外の発話には、音声はつき物であることは言うまでもない。その場合の語彙も文法も音声とは切っても切れない関係になっている。ここでは語の中における音声の構成単位、いわゆる音声の最小単位である音素を中心に考察・分析する。まず次の用例(1)を見る<sup>(1)</sup>。

(1) 男性 A：桜井さん、「ルールを守れない者は強制退去！！」ですから！

男性 B：さよなら

男性 A・女性：ちょちょちょ 待って…。

男性 A：いや あの 別に「ルールを守って生活しましょう」ってだけで  
そんな せせこましいことは書いてないですから。

服もどうぞ。

桜井さん 冷蔵庫の開けっ放し 絶対ダメですから！

光熱費は3人でセップンなんですから

女性：「折半(せっぱん)」

男性 A：僕 今 何て言った

女性：接吻(セップン)」

男性 A：セップンじゃなくて折半(せっぱん)ですから

折半(せっぱん)！ 折半(せっぱん)ね。

(テレビドラマ「シェアハウスの恋人」2)

用例(1)の会話に出てきた「3人でセップン」の発音の間違いでユーモアが生じた。下線部の「接吻(せっぷん)」と「折半(せっぱん)」は、似たような発音であるが、母音 a を母音 u に発音してしまうことによって、意味的異なりを起こした。それは発話者の男性 A がわざと言い間違えて友人たちを笑わせたいかもしれない。ドラマのストーリーによって、これは落ち込んでいる男性 B (桜井さん)を勇気づけるための発話(間接的励ましの発話機能)とも理解できるであろう。

なお、接吻(せっぷん)と折半(せっぱん)はその発音の共通部分が大き。それぞれの語の中にある「ぷ(pu)」と「ぱ(pa)」はその母音部分だけの相違がある。それで醸し出されるユーモラスな意味合いが興味深い。似たような発音(同のなかに小異があるもの)によるユーモアの例がいくらかでもあるといっても過言ではないだろう。

(2) 男性(会社員)：会社はコストだのリストラだの騒がしくて

(テレビドラマ「夜行観覧車」2)

用例(2)の「コスト」と「リストラ」は発音における共通部分があり、その「スト」という同じ部分を通して、響きのよいユーモラスな発話になったと言えるであろう。一方、現代の社会事情でもある、会社の不景気で不安定な状況に対する話者の不満をも表わしている。ユーモアの不満表明だと分析できる。

このような音声関連のユーモアの発話は、コマーシャルなどのフレーズにもよく見られるが、次の例(3)のような意味と発音との結びつきを重視する用法がある。

- (3) ただし明星食品には「1分で、はやい、うまい」をコンセプトにした「チョッパヤ」シリーズがすでにある。「1分で食べられるという機能的な価値だけで売れるとは考えていない。おいしさを担保することも必要不可欠」(梅林氏)と、新フレーバーのスープ選定にもマーケティングを重ねた。

<http://zasshi.news.yahoo.co.jp/article?a=20130130-00000001-trendy-ind>

用例(3)全体は「女性向けカップ麺」のブームが来るかどうかの話題に関する内容である。その中にあるカップめんのコンセプトとなっているコマーシャルである「1分で、はやい、うまい」のような母音「い」で終わる語を二つ連続に使って、カップめんの特徴を際立てただけでなく、その響きも心地よい。語呂の快感より生理的、心理的満足感をもたらし、ユーモア発生の根源的なものだとも考えられる。上記三つの用例はどれも音声の「異同」に関する使用例であるが、とくに用例(1)は同に異があり、用例(2)、(3)は異に同があり、語同士に存在する音声の構成要素の対照によって、発話の華——ユーモアが織り成されている。

### 3.2. 語の使用に見られるユーモア

3.1 節で語の中にある音の成分を中心に、ユーモアの発話を考察した。ここでは語単位をもとに、更なる分析を進める。

新しいものを好み、古いものを嫌うのは人間の天性の一つであろう。ことば遣いや表現に関しても同じことが言える。もちろん、語の使用にもその傾向が現われている。ありきたりの表現や使い古された言い方はふつう、ユーモアにはならない。ユーモアの表現はきっと、どこか従来とは同じでなく、新味や工夫のある表現でなければならない。たとえば年齢を言うとき、「四十歳」より、「不惑」のほうが味わいが深く、インパクトがあろう。下記の用例(3)と(4)を読めば分かる<sup>(2)</sup>。

- (3) 邓小平，个子又次之，年龄也又次之。这时他四十四岁，不惑已过。比起刘、陈，邓自有另一番风采。邓不多语，沉稳精明，严肃起来令三军生畏，细致之时体贴入微。他行事果断，意志鲜明，与老友相聚，亦是谈笑风生，用四川话谈古论今，故事可多着呢。

(鄧小平は、背丈は陳毅よりもさらに低く、年齢も一番若かった。このときの父は四四歳で、不惑を超えたばかりであった。劉や陳と比べ、鄧はおのずと風采を異にしていた。鄧は口数が少なく、沈着で機転がきき、厳肅なときには三軍を恐れさせ、細かく考えるときには実に周到だった。行動は果断、意志は明確で、古くからの友人と集まると談論風発、四川方言で古今のことを語り、話題も実に豊富であった。)

(我的父亲邓小平(原文)わが父・鄧小平(2)(訳文))

- (4) 可我不是圣人。我早就对你说过，两个大问题压迫着我，妨碍着我的潜力的发挥。第一，我的婚姻和家庭。第二，我的社会地位。我已经早就过了不惑之年；我得不到尊重和理解。(だが私は聖人君子ではない。前からいってるように、私は二つの大きな問題に抑えつけられて力を発揮できないんだ。その一つは、私の結婚と家庭、二つ目は社会的地位、不惑の年をとっくに越えた私が尊重と理解をえられない事だ、と父はいった。)

(活动变人形(原文)応報(訳文))

用例(3)と(4)の下線のところは、いずれも「四十歳」が使えるが、それを用いず「不惑」が使われている。「不惑」の出典は、中国の古典『論語』であり、「四十歳」の異名として現在、中国語にも日本語にも用いられている。孔子の『論語』為政第二には「子曰、吾十有五而志乎學、三十而立、四十而不惑、五十而知天命、六十而耳順、七十而從心所欲、不踰矩。」と書いてあり、この部分の内容は、もともと、作者孔子自身の人生体験に関する叙述であり、孔子が70歳になったとき、それまでの自分の人生を振り返って述べたものであるが、いまは、「不惑」を以って四十歳を指すだけでなく、「而立」を以って、三十歳を指し、「知天命」を以って五十歳をかわりに指し、「耳順」を以って六十歳を指すこともできる。ちなみに、今流行っている外来語(厳密には和製英語)のアラフォーがある。アラフォーはaround 40(アラウンド-フォーティ)の略であり、40歳前後の女性を指すのである。アラフォーはアラサー(around 30(アラウンド-サーティ)の略)の派生語として生まれたことばで、日本では2007年から使われるようになり、2008年のユーキャン新語・流行語大賞の年間大賞に選ばれたそうである。このことは、流行語の一端をのぞかせてくれる同時に、人間の語彙表現における新を求め、個性的使い方を好む意欲もうかがえる。一步進んで考えると、「不惑」は「四十になってあれこれと迷わず」の四十歳の特質が強調され、アラフォーは21世紀に入った新しい時代背景(男女平等や女性の活躍、経済的余裕などもろもろの要素が想像できる)に生きている四十代の女性のことを視野に入れて使われる興味深いことばであろう。さらに現在ではアラカンという(アラウンド還暦)という言葉もあり、この言葉は往年の名優嵐寛壽郎のニックネーム「あらかん」を彷彿させる語彙も登場している。ニックネーム「あらかん」を彷彿させる語彙も登場している。

また、「わずかの違い」と「紙一重の違い」についても同じことが言えるであろう。「(ほんの)わずかの違い」より、「(ほんの)紙一重(かみひとえ)の差でしかない」のほうが分かりやすいし、おもしろさもある。紙一枚の厚さはどれくらいあるか、誰でも(幼稚園に入る前の赤ちゃん以外?)知っている生活常識のようなことで、具体性に富む表現であり、それを以って、些細の違いを表わすとき、抽象性の高い副詞「わずか」などより、発話として生き生きとしていて、ユーモラスである。

上述した「四十歳」と「不惑」、「わずか(の違い)」と「紙一重(の違い)」のような使用例は、語彙の互換性を持つ用法(3)であるが、語彙そのものにおける構成成分の入れ替えによるユーモアのある用法もある。たとえば、「一石二鳥」と「一石三鳥」のような例である。一つの石を投げて二羽の鳥を落とす意から、一つの事をして二つの利益を得ることに転じて指す場合の「一石二鳥」(一挙兩得)は、さらにもじって、一つの事をして三つの利益を得る場合の「一石三鳥」の応用もおもしろい用法であろう。

### 3.3. 構文レベルに見られるユーモア

加藤周一の著書『言葉と人間』をひもとき、次の部分を読んだとき、思わず会心(かいしん)の笑みをもらった。

- (5) 旧遊の地、中国では、二人の偉大な指導者、周恩来・毛沢東が逝って、国内の複雑な力関係が「文化大革命」以来はじめて表面にあらわれるようになった。巨星墮ちて天下の秋を知る。

(『言葉と人間』p. 258)

下線の部分である「巨星墮ちて天下の秋を知る」の文は、よく知られている「一葉落ちて天下の秋を知る」という表現、その因果関係の意味を表す複文とはまったく同じ文法構造が使われている。「一葉落ちて天下の秋を知る」の出自は中国の古典『淮南子(えなんじ)』(紀元前120年ごろ漢代初期に編まれた百科全書。神話伝説研究資料の宝庫だといわれている)であり、原文は“以小明大、見一葉落而知歳之将暮。”(『淮南子・説山訓』)であり、「小さな事柄から大きな意義を見

出す。一枚の葉が落ちたのを見て年の暮れになるのが分かる。」の意味を表わしている。そこから、「物事の一部から物事全体を見通す」のような派生的意味として使われるようになった。古典に詳しく、漢語素養の高い加藤周一にとって、このような表現は余裕の応用であろう。しかも、「巨星墮ちて天下の秋を知る」の文が書かれた部分の、その次の段落で、加藤周一はさらに同じ構文を用いている。すなわち、「政治すたれて、官僚組織の力を知った」の文である。同じパターンの「て形(～～て～～を知る)」の因果構文が意味との巧妙な組み合わせで有効に繰り返し用いられ、さすが加藤先生の文体だと大いに感心した。

また次のような例がある。

(6) やれやれ、口は災いのもと、もの言えは唇さむし、と観念して、苦い酒を飲む。

(『日本の修辞学』p. 62)

用例(6)の「もの言えは唇さむし」は江戸前期の俳人松尾芭蕉の句「物言えは唇寒し秋の風」よりの引用かつ応用だと分かる。人の短所を言ったあとは寒々とした気持ちに襲われる、の意であり、転じて、うっかりものを言うと、それが原因となって災いを招く。「口は災いのもと」と同じ意味である。母語が中国語の筆者にとって、中国の史書『左伝』(紀元前 350 年ごろ成るといわれる書。列国の興亡、覇権の推移—“春秋時代”の人間群像を生き生きと描く史書)の「唇亡齒寒(唇亡びて齒寒し)」を思い浮かべる。現代中国語では、この「唇亡齒寒」の表現は「唇がなくなると歯が寒くなる」という意から、互いに助け合っていた一方が亡びると、他の一方も孤立して危ういことのたとえとして使われ、利害を共にする密接な関係にあることを表わす。一つの用法からそこまで辿られ、奥深く感じずにはいられない。ユーモアのある発話にはそのような底力があるからこそ、読み手や聞き手(読者や聴衆)を魅了したのであろう。

さらに日常生活にもよく用いられた「N 中の N」のような表現構造も秀逸的印象を与えられるユーモアのある言い方である。

(7) しかし、ヒットまでの道のりは決して楽なものではなかった。「今だからヒット商品って言ってもらえますが、当時はいつまでやっているんだっていう、逆風中の逆風でした」と柚木は振り返る。05 年からすでに 4 年以上研究は続き、ベジップスの開発は最終段階を迎えていた。

[http://zasshi.news.yahoo.co.jp/article?a=20130121-00012555-toyo-bus\\_all](http://zasshi.news.yahoo.co.jp/article?a=20130121-00012555-toyo-bus_all)

例(7)の「逆風中の逆風でした」は、名詞述語文であるが、「向かい風の中で最も向かい風らしいだった」の意味として使われ、どれほど障害があったか、その妨げることの程度の高さを生き生きとした表現を以って強調し、じっさい形容詞述語文の用法となっている。似たような言い方はたとえば、「秀才中の秀才」、「古典中の古典」、「異端中の異端」などがあり、枚挙に暇がないほど生産性が高い。同じ名詞を、「中の」を挟んで、前後二回繰り返して使われ、同類の中でそれらしい性質がいちばん程度が高いことを表わし、単調的副詞の「いちばん」、「もっとも」の用法と比べたら、より変化に富む言い方で、人をひきつける興味深く、おもしろい表現であろう。

「N 中の N」の表現も、「一葉落ちて天下の秋を知る」からの派生的用法である「巨星墮ちて天下の秋を知る」、「政治すたれて、官僚組織の力を知った」も、俳人松尾芭蕉の句「物言えは唇(くちびる)寒し」の引用応用も、どちらもふつうではない表現であろう。ありふれた言い方、平凡的用法ではないから、聞き手・読み手の注意を引くことになり、発話の最大の効果を発揮でき、話者や書き手の言語運用における効率追求の工夫がうかがわれるであろう。

#### 3.4. テクストレベルに見られるユーモア

上述 3.1 節から 3.3 節まで分析したように、音一つ、語一個、文一つだけでユーモアの発話になることがある。また、そのような用法がある文章のところどころにちりばめられ、それらの組み合わせで、テキスト全体のユーモアをも醸し出している。日本の作品だと、たとえば夏目漱石の

『坊ちゃん』など、中国の作品だと、老舎の『正紅旗下』や王蒙の『堅硬的稀粥』などが思い出せる。小説だけではなく、詩などのような文体もこのカテゴリーに入るだろう。紙幅の関係もあり、ユーモア小説に関する考察を今後の課題としたいが、ここでは詩という文体にもとづき、そのテキストユーモアを考える。

中国では毛沢東の詩『沁園春・雪』がよく知られている。それは国語の教科書にも採用されていて、中学一年生でも暗誦できるほど知名度の高い作品である。その『沁園春・雪』をもじって、大気汚染や腐敗など目下の中国における社会問題を鋭く批判した詩作『沁園春・霾』がいつの間にかインターネットに現われ、ブラックユーモアの力作となっているようである。原作を左下に、模擬作を右下に掲げる。

(8) 沁園春・雪

北国風光，千里冰封，万里雪飄。  
望長城内外，惟餘莽莽；  
大河上下，頓失滔滔。  
山舞銀蛇，原馳蜡象，欲與天公試比高。  
須晴日，看紅裝素裹，分外妖嬈。  
江山如此多嬌，引無數英雄競折腰。  
惜秦皇漢武，略輸文采；  
唐宗宋祖，稍遜風騷。  
一代天驕，成吉思汗，只識彎弓射大雕。  
俱往矣，數風流人物，還看今朝。

(9) 沁園春・霾

北国無光，千里霧霾，万里車噐。  
看道路縱橫，車堵人塞；  
大人小孩，咳嗽連連。  
山無綠色，原缺清水，到处灰霾何時了？  
盼雨日，一時清爽，中等就好。  
江山原本多嬌，今無數裸官竟外逃。  
闖村官四妻，子女十個；  
馬列衣官，情婦風騷。  
色官志明，馭女無數，官權无拘怎得了。  
特色矣，數風流人物，還看今朝。

上記の(8)と(9)に関して、文字数から言うと、詩のタイトルもそうであるが、内容のほうは全体として一か所以外すべて完全に対応している。その上、(8)と(9)、つまりここでの左右両側の詩作はほぼどの文にも同じ語彙が使われている。同じ語彙でなくても、品詞の同一性を可能な限り考慮に入れている。たとえば、擬音語の「滔滔」対「連連」など。もちろん品詞性と同時に意味的対応も考えあわせている。たとえば、「望」と「看」のような視覚動詞の対応使用など。このように、右側の新作(9)の『沁園春・霾』は音声、語彙、構文など形態的特徴においては、左側の(8)の名詩『沁園春・雪』との呼応があつて、何よりいちばん大事なものは、(9)の『沁園春・霾』という新作の使命—時の社会の弊害を指摘・批判する機能を忘れず、そのような巧妙な音声・語彙・構文を対応の積み重ね、全体の意味において、環境問題や官僚問題などをはげしく攻めたてているであろう。しかもユーモラスに、そして痛快に暴き出している。

上述のような詩全篇のスタイルをそのまま承襲するのではなく、名編の中の名句をまねて、更なる新しい内容の詩作を創ることもある。たとえば、中国で詩人徐志摩(4)の人口に膾炙する詩作「再別康橋(さらば、ケンブリッジ)」があり、次のような内容である。

(10) 輕輕的我走了，正如我輕輕的來；

我輕輕的招手，作別西天的雲彩。

那河畔的金柳，是夕陽中的新娘；  
波光里的艷影，在我的心頭蕩漾。

軟泥上的青荇，油油的在水底招搖；  
在康河的柔波里，我甘心做一條水草！

那榆蔭下的一潭，不是清泉，  
是天上虹揉碎在浮藻間，沉澱着彩虹似的夢。

寻夢？撐一支長篙，向青草更青處漫溯，  
 滿載一船星輝，在星輝斑斕里放歌。  
 但我不能放歌，悄悄是別離的笙簫；  
 夏蟲也為我沈默，沈默是今晚的康橋。

悄悄的我走了，正如我悄悄的來；  
我揮一揮衣袖，不帶走一片雲彩。

上記(10)の「再別康橋(さらば、ケンブリッジ)」という詩作における最初と最後の下線を引いた部分は、もっとも代表的な名句であり、最初の「輕輕的我走了，正如我輕輕的來；(そっとぼくは去ってゆく、ちょうど、そっとぼくが来たように)」と最後の「悄悄的我走了，正如我悄悄的來；(ひそやかに、ぼくは立ち去ってゆく、ちょうど、ぼくがひそやかに来たように)」はどれも副詞(擬態語)の「輕輕(そっと)」「悄悄(ひそやかに)」が繰り返し使われ、音聲的響きが快く、意味的にも淡いタッチで詩人のさっぱりしている気持ち、クールな一面が描き出されているので、もっとも世間に知れ渡っている名句となったのである。それで、次のようなまね作がインターネット上に現れたのであろう。

(11) 輕輕的他來了

帶着一疊不厚的材料  
 悄悄的他走了  
 留下一副女人戴的头套

この(11)は「再別康橋(さらば、ケンブリッジ)」の名句「輕輕的我走了(そっとぼくは去ってゆく)」と「悄悄的我走了(ひそやかに、ぼくは立ち去ってゆく)」をまねて、一人称の「我」のかわりに、三人称の「他(かれ)」を使っている。これは第三者の立場からその「他(かれ)」のことを述べるためだと推測できる。その「他(かれ)」はだれであろうか。この(11)の第2句と第3句を読めば、当時(2012年2月)の世間を大いに騒がせるある政治事件を知っている人はすぐ分かるであろう。2012年2月6日、重慶市の副市長兼公安局長の王立軍(そのときの重慶市市長薄熙來の右腕だった)が、突然公安局長のポストから解任された。その数日後、王立軍が重慶市の近くの成都市にある米国総領事館に政治亡命を求めるが、亡命は拒否され、中国政府に拘束された。王立軍が四川省成都市の米国総領事館に政治亡命を求め駆け込むとき、女装していたそうである。と同時に、彼の上司である重慶市市長薄熙來に関する資料も持っていったと言われた。(11)の第2句にある形容詞の否定形「不厚(厚くない)」の文字どおりの意味は「薄(薄い)」であり、「不厚的材料」は描写的意味の「薄い資料」となるが、所属の意味「薄(熙來)の資料」とも解できる。それは間接的に王立軍がその上司である重慶市市長の薄熙來に関する資料を持っていたことを指すのである。(11)の第4句「留下一副女人戴的头套(女性用のかつらを残った)」は女装していて、米国総領事館に政治亡命を求め駆け込む王立軍のことをからかっている内容だともすぐ分かるであろう。事件の背景を知っている人(もちろん「再別康橋(さらば、ケンブリッジ)」の名詩も知っている人)は、この(11)の再創作の詩を読むとき、その風刺的ユーモアな意味の強さに思わず笑ってしまう。ただこの笑いはいろいろ思索(社会のあり方、政治のすがたなどもろもろ)を人々にもたらしたにちがいないであろう。それに、事件直後にこのような詩作を創った作者無名氏の配慮的精神(事件関係当事者の名前を直接呼ばず、第3人称や形容詞の意味などを通して読者に想像させることなど)もうかがえる。

#### 4. 形態的特徴のない表現に見られるユーモア

ユーモアであるかどうか、上述3節で考察してきた音聲、語彙、構文ないしテクストなどにおけるような顕著な形態的特徴がないが、コンテキストのおかげでユーモアを生じる発話の例も見

られる。本節ではそのような使用例を取り上げる。もしこの節にサブタイトルが付けられるなら、コンテキスト依存のユーモアと書き加えたい。

(12)「じゃあ私のおねがいをふたつ聞いてくれる？」

「みつつ聞くよ」

直子は笑って首を振った。「ふたつでいいのよ。ふたつで十分。ひとつはね、あなたがこうして会いに来てくれたことに対して私はすごく感謝してるんだということを知ってほしいの。とても嬉しいし、とても一救われるのよ。もしかたえそう見えなかったとしても、そうなのよ」

(『ノルウェイの森』(上)P.18)

(12)の「みつつ聞くよ」という発話自体は語彙的に文法的にも、とくに変わったところがなく、ごくふつうの言い方であるが、この「みつつ聞くよ」という発話のその直前の受け手である聞き手の発話「じゃあ私のおねがいをふたつ聞いてくれる？」とともに考えると、話し手のユーモアが分かる。発話機能としては、「じゃあ私のおねがいをふたつ聞いてくれる？」は依頼、「みつつ聞くよ」は応答の発話である。ただこの応答の発話はふつうの応答と比べて、予想できない答えになっているようであろう。それは依頼側の「ふたつ聞いてくれる？」に対して、「みつつ聞くよ」と応じた発話は、「ふたつより一個多くても大丈夫よ」のような文字どおりの意味を通して、相手の依頼を積極的に受け入れる話者の気持ちを十二分に表わすことができているからである。この発話をもたらした効果はその後の叙述からも分かるが、依頼側の直子は笑ったのである。読者はおそらく、主人公話し手(男性)の、好きな女性直子のために何でもやってあげる、直子に喜んでもらうための姿勢、その真摯な心がこのユーモアの発話に含まれていると感心し、感動せずにいられないであろう。これも文脈(話し手聞き手、前後の発話のつながり等)を抜きにして考えられないユーモアのある発話の典型的な例だと思わざるを得ない。

なお、次の例(13)にも同じふつうの表現が使われたが、文脈の力でユーモアのある表現となっている。

(13) 29日、第1子となる男の子を帝王切開により出産したと、所属事務所を通じて発表したお笑い芸人の山田花子が、自身のツイッターで改めてファンに向けて出産の報告をした。

産後の山田が開口一番つぶやいたのは、「皆さん、たくさんのお祝いメッセージありがとうございます！」という感謝の言葉。「無事に赤ちゃん、産まれました(\*^^\*) 私のお腹から、あんなに可愛い子が産まれるなんてビックリです～これからは、一児の母親です！街で、会っても誘惑しないでね(\*^\_^\*)」と、ユーモアたっぷりに喜びを表現している。

山田は、2010年5月3日にトランペット奏者の福島正紀氏と結婚。本日29日午前8時13分に東京都内の病院で第1子を出産した。これから1週間ほど入院し、様子を見ながら仕事復帰時期を決める予定だ。

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20120629-00000029-flix-movi>

例(13)の「街で、会っても誘惑しないでね(\*^\_^\*)」は言語形式で判断すると発話機能としては、その「しないで」の典型的文末構文使用から、禁止だと判断できる。このセンテンスだけを見ると、ごくふつうの禁止表現であるが、話し手が一児の母親となったばかりのお笑い芸人の山田花子であり、発話の受け手は不特定多数のファンたちなど、前後の文脈のことを考えると、その冗談的口調を介して、話者の母親になったばかりの幸せな気持ちをおもしろく表わしている。

## 5. おわりに

ユーモアのある発話は笑いを引き起こす。でも決して笑いのような顔面筋肉運動に止まらず、笑いとともに、知的刺激(学び)、吸収、喜びを得、外の世界(自然界や人間界)についての知識を新たにし、物事に関する理解を深めることができ、人間の内面的成長につなげるプラスの効果



持つと思う。ユーモアの発話は人間生活を明るくさせる機能もある。とくに短所や足りないところに関する間接的鋭い指摘として使われる場合、他人の面子を傷つけてしまう恐れがあるネガティブの発話を配慮的、ポジティブの発話に言い換えることを通して、発話の最終的目的や役割を果たす。と同時に、人間に笑って受け入れさせることによって、心情が暗くなり落ち込むのではなく、プラス的思考力が作動され、笑って困難に立ち向かう勇気をもらえるであろう。

なお、下記のようなユーモアと密接的関係がある皮肉などに関しては、今後更なる緻密的考察をしたい。

(14) 本格的に「将来の夢」を意識し出すようになったのは、中学生になってからだった。その職業は、弁護士。きっかけは、何でもないようなことだった。当時、反抗期の激しかったボクに対して、母が「あなた、そんなに口ゲンカをして人を負かすことが好きなら、いっそ弁護士にでもなったら」と皮肉を言ったのだ。反抗期のくせに、どうやらその皮肉だけはバカ正直に受け取ったらしい。「弁護士か……いいな」

(五体不満足)

## 注

(1) 用例の下線部は筆者による。以下その他の用例の下線部分も同じく筆者による加筆である。

(2) この(3)と(4)の用例出典は『中日対訳コーパス』(2003、北京日本学研究所)である。加えて本稿最後の用例(14)の出典も同様である。

(3) 夏目漱石の名編『坊ちゃん』の中にあるあだ名の用法を思い出す。たとえば「狸(たぬき)」「赤シャツ」など。それもここで言っている「語彙の互換性を持つ用法」の同種で、諧謔的用法であろう。具体用例としては、次のようなものが挙げられる。「祝勝会で学校はお休みだ。練兵場で式があると云うので、は生徒を引率して参列しなくてはならない。おれも職員の一員として一所にくっついて行くんのだ。」(『坊ちゃん』新潮文庫 p. 143)、「海屋の懸物の前にかが羽織、で着席すると、左に赤シャツが同じく羽織袴で陣取った。」(『坊ちゃん』新潮文庫 p. 133) などなど。下線の引いたところの語はそのような特徴のある人物を指し、けっして動物の「」やほんとうの「赤いシャツ」を指すのではないことは、『坊ちゃん』の読者にとって自明なことであろう。

(4) 徐志摩(1897-1931)は、20世紀近代中国新詩運動の代表的詩人である。「再別康橋(さらば、ケンブリッジ)」は徐氏の留学先のケンブリッジでの思い出を発表した作品である。

## 参考文献

池上嘉彦(1978)『意味の世界 現代言語学から視る』日本放送出版協会

尾上圭介(1999)「落語の<下げ>の談話論的構造」『日本語学』10月号 4-15

小野正樹(2005)『日本語態度動詞文の情報構造』ひつじ書房

小野正樹・小林典子・長谷川守寿著(2010)『コロケーションで増やす表現』くろしお出版

加藤周一(1977)『言葉と人間』朝日新聞社

阪田雪子編著・新屋映子・守屋三千代著(2003)『日本語運用文法』凡人社

定延利之・中川正之(2007)『音声文法の対照』くろしお出版

辻大介(2001)「ココロの話法—アイロニー・ユーモア・風刺を中心に—」『月刊言語 特集 話しことばのスタイル』6月号 54-60

外山滋比古(1983)『日本の修辞学』みすず書房

野林正路(1997)『語彙の網目と世界像の構成—構成意味論の方法』岩田書院

松枝茂夫編(1986)『中国名詩選』(上・中・下 全三冊)岩波文庫

森山卓郎(2002)『表現を味わうための日本語文法』岩波書店

山岡政紀(2000)『日本語の述語と文機能』くろしお出版

- \_\_\_\_\_ (2008) 『発話機能論』 くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』 明治書院
- 李奇楠 (2011) 「禁止表現の日中対照」 『日本語コミュニケーション研究論集』 第1号 103-112
- \_\_\_\_\_ (2012) 「励ましの日中対照研究」 『日本語コミュニケーション研究論集』 第2号 79-89
- 吕叔湘、朱德熙 (2002) 《语法修辞讲话》 辽宁教育出版社
- 谭达人 (1997) 《幽默与言语幽默》 生活·读书·新知三联书店
- Searle, J. (1979) *Expression and Meaning*, Cambridge University Press

(李奇楠、北京大学外国語学院副教授、liqinan@pku.edu.cn)